

50/03/2022

日本テスト学会第15回学会賞記念講演会  
学会論文賞記念講演

# CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠)の 日本語教育への適用可能性に関する基礎研究

野口裕之(名古屋大学)・大隅敦子(国際交流基金)・  
熊谷龍一(東北大学)・島田めぐみ(日本大学)

# 本日の内容

CEFRの予備知識

CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠)の

日本語教育への適用可能性に関する基礎研究

目的

方法

結果

考察

まとめと今後の課題

参考文献

# CEFRの予備知識

## CEFRの予備知識

CEFRの日本語教育への

適用可能性に関する基礎研究

目的

方法

結果

考察

まとめ と 今後の課題

参考文献

# CEFRとは

- 欧州域内で国や言語の違いを超えて、言語(外国語)教育専門家(テスト開発機関や行政担当官を含む)等が言語学習, 教授法, そして評価法に関する相互理解およびコミュニケーションを促進するための基盤となる参照枠組みを提示した文書。
- CEFR (Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment) のアクリロニム。

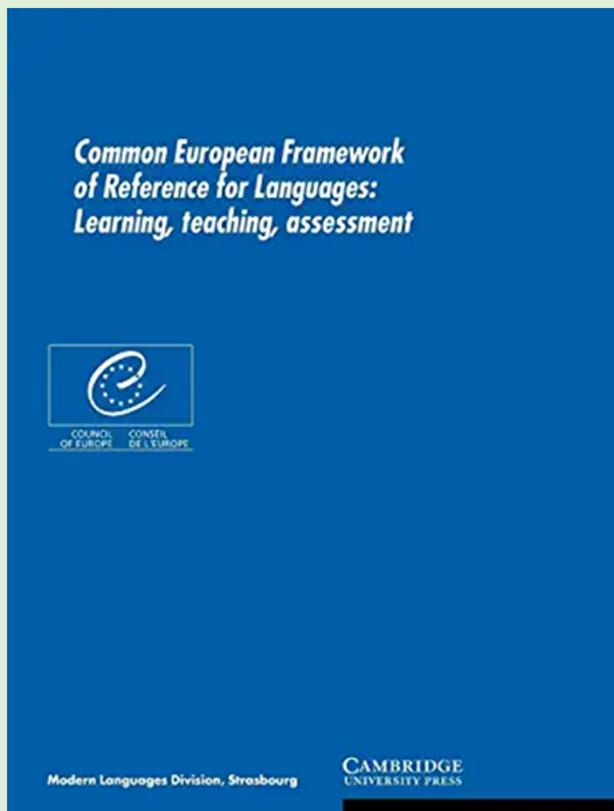
## CEFRは・・・

- 外国語の能力規準を表わすものではない。
- 言語学習，教授法，そして評価法に関する相互理解およびコミュニケーションを促進するための基盤となる

### 「参照枠組み」

- 外国語学習者の現在の能力水準では，どのような言語行動が可能か，次の学習目標はどのようなことか，などが示される。

# CEFR(2001)英語版 と 吉島・大橋訳編(2004)



Council of Europe (2001). *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge University Press



吉島茂・大橋理枝 訳編 (2004). 外国語教育Ⅱ- 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠-, 朝日出版社.

# CEFRと欧州評議会

- 欧州評議会 (Council of Europe) が1997年に開始した言語教育プロジェクトの成果として、2001年に英語版とフランス語版 (Council of Europe, 2001) が出版された。
- これを皮切りにCEFRは英語・フランス語以外の言語版も順次出版されている(2021年現在40言語版)が、それらは英語版を各言語に単に翻訳したものではなく「基本的な線は確保しながらも、各言語の視点から記述している。」(吉島・大橋他, 2004) 点に特徴がある。

# 欧州評議会 Council of Europe

- 欧州評議会は「一つの欧州」を目指して、人権、民主主義、法の支配、文化的協力の分野で国際社会の基準策定を主導する国際機関として、1949年にフランスのストラスブール(アルザス州)に設立。
- 当初の加盟国は、フランス、イタリア、英国、ベルギー、オランダ、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、アイルランド、ルクセンブルクの10カ国 → 現在は47カ国。
- 日本は1996年11月に米国、カナダに次いで3番目の欧州評議会のオブザーバー国となっている。

# CEFRの概要

- 「1つの欧州」を目指す欧州評議会の理念を受けてCEFRは、
- 1) 欧州市民の相互理解促進のために市民が母語以外の言語も必要に応じて使用できるようになる「複言語主義」と、母語話者並みを必ずしも目標とはせず、必要な能力を身につける「部分的能力」の許容、
  - 2) 言語をベースとして他の文化を理解する「複文化主義」、
  - 3) 学校教育終了後も自律的に生涯学習を続けられる学習者支援、
  - 4) 欧州域内での移動に対する言語学習の継続性確保、
  - 5) 教師中心主義ではなく学習者中心主義の立場、
  - 6) 行動中心主義(○○ができる)の言語教育観、  
などを基盤として策定されている。

# CEFRでは具体的な言語能力水準を 「共通参照レベル」として

A : 基礎段階の言語使用者 (Basic User)			
A1	Breakthrough		
A2	Waystage		
B : 独立した言語使用者 (Independent User)			
B1	Threshold		
B2	Vantage		
C : 熟達した言語使用者 (Proficient User)			
C1	Effective Operational Proficiency		
C2	Mastery		

# これら6レベルのそれぞれに対して、 共通参照レベル

全体的な尺度(global scale) レベルイメージ

自己評価表 (self-assessment grid) 言語行動5側面のレベルイメージ

聞く (Listening)

読む (Reading)

話す(表現) (Spoken production)

話す(やりとり) (Spoken interaction)

書く (Writing)

自己評価表の言語行動5側面を側面毎に場面や状況に応じたカテゴリに分けて、具体的に「できる」言語行動を例示的言語能力記述文で示している。「例示的」という表現に注意！ ➡ Can-do statements

# CEFRにおける共通参照レベル と言語行動のグリッド

レベル	全体的な尺度		聞く	読む	話す (表現)	書く	やりとり
C2							
C1							
B2							
B1							
A2							
A1							

# 能力記述文の尺度化

- CEFRの能力記述文は、スイス国立科学研究機関(Swiss National Science Research Council)が1993年から1996年にかけて実施したスイス・プロジェクトの成果のひとつを利用したもの。
- 300名近い教師と2800名ほどの学習者データをもとに、項目応答理論(ラッシュ・モデルおよび多相ラッシュ・モデル)を適用して、基礎段階の学習者から熟達した言語使用者にわたる広範囲の能力記述文を相互に比較できるように、全ての能力記述文の困難度を共通尺度上で表現。
- その結果、能力記述文を適当な段階に振り分けて示すことが可能になった

(CEFR付録B, およびNorth & Schneider(1998), North(2000)など参照)。

## 日本語教育の場合に

### CEFRは絶対的な参照枠か？

- 現在CEFRが世界の外国語教育界や言語テスト界で注目されている。
- 日本でも、  
日本語教育分野で『**JF日本語教育スタンダード2010**』  
(国際交流基金, 2013)、  
英語教育分野で『**CEFR-J**』(CEFR-J研究開発チーム, 2011)  
などが開発されている。
- ただ、**CEFRに対しては建設的な批判**もあり、その点もきちんと理解しておくことが必要。

例えば,

「CEFRは実証的に妥当性が示されている言語能力の記述  
あるいは言語学習過程のモデルに基づいたものではない」  
(Fulcher, 2003)

「CEFRの言語能力記述尺度における‘Can-do’ statementの  
困難度は実際の言語行動場面の文脈に依存して変動するが、  
そのことが十分に考慮されていない」(Weir, 2005)

などの指摘がある。

現在もCEFRに対する批判的な論説もあり, そのことも忘れてはいけない。

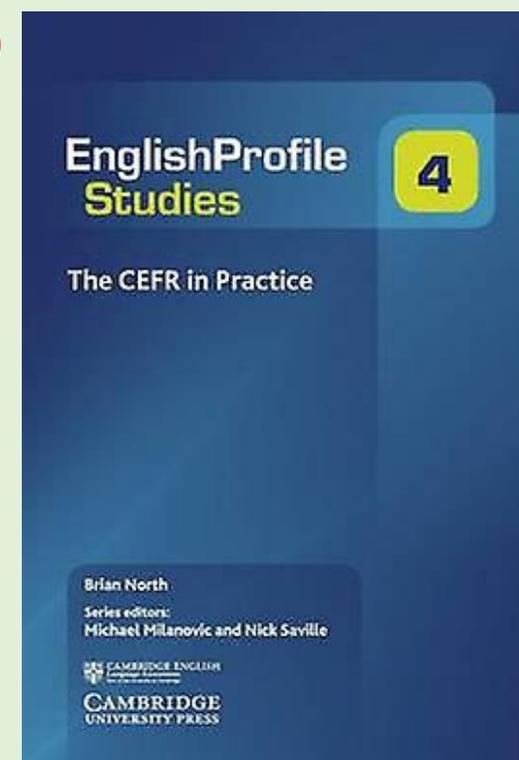
- また, 日本語教育の場合にCEFRが絶対的な共通参照枠かどうかは慎重に吟味する必要がある。

## ➤ RLDs (Reference Language Descriptors)

外国語学習場面での**目標言語**が英語など**欧州域内の言語**の場合には、CEFRをそのまま各言語に適用してもほとんど問題がなく、CEFRのレベルと個別言語での語彙・文法等の具体的使用実態とを関連付けた **RLDs** を用意することで**対応可能**であるが、**目標言語が欧州域外の言語**の場合にはCEFRを適用するにあたって**注意すべき点**がある。

<https://www.englishprofile.org/wordlists/evp>

<https://www.englishprofile.org/english-grammar-profile/egp-online>



North, B. (2014). *The CEFR in Practice*. Cambridge University Press.

## ➤ 日本語の場合に欧州系言語との 共通性の度合いが低い

例えば、**米国国務省外務研修所 (Foreign Service Institute; FSI) の調査**では(いろいろな条件が付くが)、英語母語話者が一定程度の外国語能力を身に付けるのに、

フランス語・スペイン語	23-24週間,
ドイツ語	30週間,
<b>日本語</b>	<b>88週間</b>

かかると報告。

- FSIのデータはあくまである条件の下での学習者が**一定水準に到達するのに必要とする学習時間**であるが、**欧州系の言語と日本語との間に大きな時間差**がある。
- そのため、**欧州域内の言語に関する共通参照枠であるCEFRに日本語を対応づける際には、そのままのレベルに対応づけられる能力記述とそうでない能力記述とがある**と思われる。
- 特に、「読む」「書く」の能力(技能)に関して「文字(漢字)」の能力をどのように位置づけるかが問題になる可能性があり、これらの点に関して実証的な研究を積み重ねて十分に検討する必要がある。

# CEFRの例示的言語能力記述文の尺度が 日本語でもそのまま適用できるのか？

困難度順に並べたときにCEFRと同一の順序になるか？

CEFRの尺度をそのまま利用して問題ないか？

- 目標言語が日本語の場合には,
    - 欧州言語と表記体系が大きく異なる
    - 漢字語彙の存在,
    - 「スピーチレベル」や「位相」, 「敬語」の問題,
    - 「書き言葉」と「話し言葉」の習得レベルの並行性が  
欧州言語に比べて弱い,
- などの特徴 → 「日本語の独自性」「欧州内言語と日本語との距離」

## North, B. (2014)

- 「日本語や中国語などの言語にCEFRを用いることができるか」
  - 「ヨーロッパの言語用に作成された能力記述文をアルファベット以外の文字を持つ言語に適用させるのは簡単ではない」
  - 非ラテン系文字言語とアルファベット言語とで文書をスキャンニングする方略が異なる(North, 2014:44)
- ➡ そうだとすると、この違いが**CEFRの「読む」言語活動の例示的能力記述文の内容やレベル配置に影響する可能性がある。**

CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠)の  
日本語教育への適用可能性に関する基礎研究

# 目 的

CEFRの予備知識  
CEFRの日本語教育への  
適用可能性に関する基礎研究

目 的

方 法

結 果

考 察

まとめ と 今後の課題

参考文献

# 目的

本研究では、**CEFRの2001年版**（以後、CEFRと表記）の「**受動的言語活動 (receptive activities)**」 「**聞く**」「**読む**」「**産出的言語活動 (productive activities)**」 「**話す**」「**書く**」「**相互作用言語活動 (interactive activities)**」 「**やりとり**」に含まれる**言語能力記述文**を対象にして、

- 1) それらのCEFRにおける**順序性**が、目標言語が**日本語の場合にも同様に成り立つのか**を**尺度構成理論面から検討する**、
- 2) 成り立たない部分（大きく**順序性が異なる**）がある場合に、その原因について検討する、

# 方 法

CEFRの予備知識  
CEFRの日本語教育への  
適用可能性に関する基礎研究

目 的

方 法

結 果

考 察

まとめ と 今後の課題

参考文献

# 方法 概要

調査票→回答→IRT尺度化→記述文の困難度

- 1) **CEFR**の 受動的言語活動(「聞く」「読む」), 産出的言語活動(「話す」「書く」), 相互作用言語活動(「やりとり」)の**言語能力記述文**に対して, **日本語学習者が「どの程度できる」と考えているかを自己評価して回答する調査票**を用意する。
- 2) **日本語学習者**の中から調査協力者を得て**調査**を実施する。
- 3) 各言語能力記述文に対する協力者の回答結果から**「受動」「産出」「相互作用」の言語活動別に項目応答理論(IRT)を適用して各言語能力記述文の困難度を表わす尺度を構成する。**
- 4) **その結果得られた言語能力記述文の困難度の順序とCEFRに示されているレベル設定とを比較して, それらの間で例えばレベルが異なるなど, 大きな違いが見られる言語能力記述文を取り出して, その特徴を検討する。**

# 方法 概要 第1次調査と第2次調査

	第1次調査	第2次調査
実施年	2018	2019
言語活動	「聞く」「読む」	「話す」「書く」「やりとり」
項目数	70	99
調査票言語	英語・中国語（簡体字）・ ベトナム語・日本語	英語・中国語（簡体字）・ ベトナム語
調査地	中国・ベトナム・ オーストラリア・米国・日本	中国・ベトナム・インド・ オーストラリア・米国・日本
協力者数	557	724

- 回答者の負担に配慮して第1次調査と第2次調査に分けて実施
- 本研究では、言語能力記述文を項目と呼ぶ
- 言語能力記述文(項目)の番号に「JF日本語教育スタンダード2010」(国際交流基金,2013)で振られた番号を用いた。

## 方法 調査方法(共通)

- 調査票を協力者に配布するが、言語は回答者が自由に選択
- 各項目に示された言語活動が日本語を用いてできるかどうかを自己評価して4段階評定尺度で回答する  
「1 できない 2 あまりできない 3 難しいが何とかできる 4 できる」
- 回答時間 特に制限は設けない ➡ およそ15分ないし30分で回答終了

# 方法 調査票(第1次調査)

- 1)「聞く」5カテゴリ 36項目
- 2)「読む」6カテゴリ 45項目 → 37項目  
「テレビや映画を見る」には「読む」言語活動だけが反映するとは考えられないので調査票には入れない
- 3)自己評価が難しい項目(1項目),  
カテゴリ内の項目のレベル配置を均等にするために2項目を削除
- 4)最終的に「聞く」34項目,「読む」36項目,  
計70項目で調査票を構成

言語活動	カテゴリ	項目数
聞く	聞くこと全般	12
	母語話者同士の会話を聞く	5
	講演やプレゼンテーションを聞く	5
	指示やアナウンスを聞く	8
	音声メディアを聞く	6
読む	読むこと全般	8
	手紙やメールを読む	6
	必要な情報を探し出す	8
	情報や要点を読み取る	9
	説明を読む	6
	(テレビや映画を見る)	8

カテゴリ名(日本語訳)は国際交流基金(2013)を用いた。

# 方法 調査票(第2次調査)

1)「話す」5カテゴリ52項目

「書く」3カテゴリ31項目

「やりとり」12カテゴリ155項目

➡ 項目の表現が抽象的で自己評価による回答が難しいカテゴリ(4つ)は除いて、残りから自己評価による回答が比較的容易なカテゴリに項目を絞った

2)最終的に

「話す」 経験や物語を語る 20項目

「書く」 作文を書く

レポートや記事を書く 計 13項目

「やりとり」社交的なやりとり

店や公共機関でのやりとり

情報交換する

手紙やメールでのやりとり 計66項目

全部で99項目,「話す」「書く」「やりとり」の項目数はそれぞれCEFRの約40%。

言語活動	カテゴリ	項目数
話す	話すこと全般	7
	経験や物語を語る	20
	論述する	6
	公共アナウンスをする	4
	講演やプレゼンテーションをする	15
書く	書くこと全般	6
	作文を書く	14
	レポートや記事を書く	11
やりとり	口頭でのやりとり全般	9
	母語話者とやりとりする	9
	社交的なやりとりをする	20
	インフォーマルな場面でやりとりする	20
	フォーマルな場面でやりとりする	14
	共同作業中にやりとりする	15
	店や公共機関でやりとりする	16
	情報交換する	24
	インタビューする／受ける	11
	文書でのやりとり全般	6
	手紙やメールのやりとりをする	6
申請書類や伝言を聞く	5	

カテゴリ名(日本語訳)は国際交流基金(2013)を用いた。

# 方法 調査票版構成 第1次調査

➤ 回答者の負担や調査実施地の事情に配慮して、

R版(70項目),

A版(44項目), B版(45項目),

E版(33項目), F版(31項目), G版(32項目), H版(31項目)

の7版を構成し、調査実施地の時間に配慮してR版を実施、A版かB版のいずれかを実施、もしくはE版、F版、G版、H版の中からいずれかの版を実施。

なお、19項目は全ての版に共通項目として含めた。

➤ 版により回答者数が偏ることを防ぐために基本的には、A版とB版の実施地ではA版とB版の冊子を交互に、E版、F版、G版、H版の実施地ではE、F、G、H版の冊子を1冊ずつ順に繰り返し重ねた束を作り、実施時には上から順に配布した。

## 方法 調査票版構成 第2次調査

- 実際の調査に際して、上記99項目全てに回答することは回答者にとって負担であるため、**A版50項目**、**B版49項目**、**C版48項目**の3版を構成し実施。
- **各版**はA, B, C, 間での**共通項目**（「話す」「書く」「やりとり」各8項目）と、**版毎の独自項目**とから構成。
- 実施に際してA,B,Cの3版が均等に回答者に割り当てられるように、冊子を言語別にA, B, C, A, B, C,...,という順序で予め重ねておき、回答者には上から順に配布。

# シドニー調査 調査票と調査の準備

Questionnaire date [ / / ]  
 Mother tongue [ / / ]  
 Japanese learning period [ / / ]  
 Number of Kanji you know [ / / ]

no.	statements	A		B			
		Have you ever actually experienced the situations in the question in Japanese?	Yes	No	Can you do it in Japanese?		
				1	2	3	4
1	I can follow speech which is very slow and carefully articulated, with long pauses for listener to assimilate meaning.	<input checked="" type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	1	2	3	4
2	I can understand phrases and expressions related to areas of most immediate priority (e.g. very basic personal and family information, shopping, local geography, employment) provided speech is clearly and slowly articulated.	<input checked="" type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	1	2	3	4
3	I can understand enough to be able to meet needs of a concrete type provided speech is clearly and slowly articulated.	<input checked="" type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	1	2	3	4
4	I can understand the main points of clear standard speech on familiar matters regularly encountered in work, school, leisure etc., including short narratives.	<input checked="" type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	1	2	3	4
5	I can understand straightforward factual information about common everyday or job-related topics, identifying both general messages and specific details, provided speech is clearly articulated in a generally familiar accent.	<input checked="" type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	1	2	3	4
6	I can understand the main ideas of propositionally and linguistically complex speech on both concrete and abstract topics delivered in a standard dialect, including technical discussions in his/her field of specialisation.	<input type="checkbox"/> Yes	<input checked="" type="checkbox"/> No	1	2	3	4
7	I can follow extended speech and complex lines of argument provided the topic is reasonably familiar, and the direction of the talk is signposted by explicit markers.	<input checked="" type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	1	2	3	4
8	I can understand standard spoken language, live or broadcast, on both familiar and unfamiliar topics normally encountered in personal, social, academic or vocational life. Only extreme background noise, inadequate discourse structure and/or idiomatic usage influences the ability to understand.	<input checked="" type="checkbox"/> Yes	<input type="checkbox"/> No	1	2	3	4



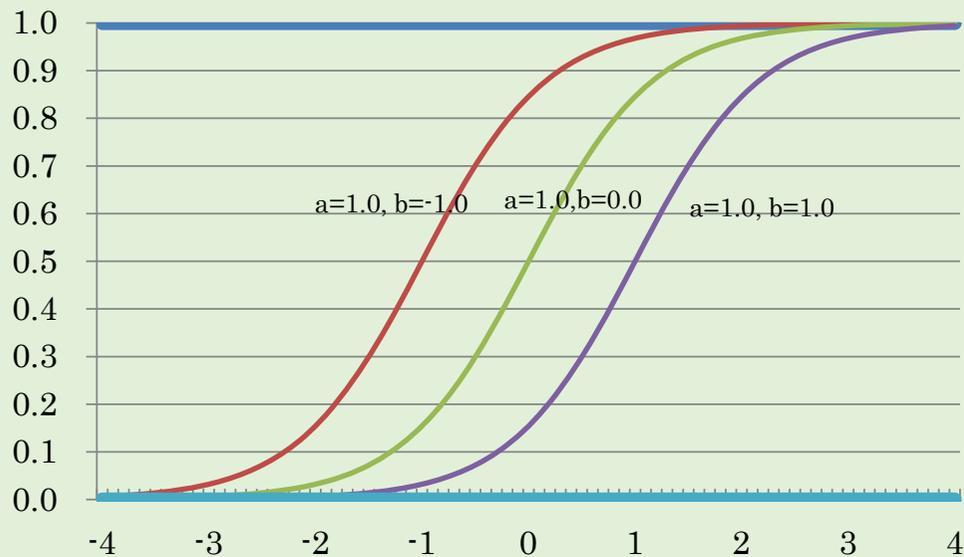
安永和央先生 (IPU環太平洋大学)

# 方法 分析方法 第1次調査・第2次調査

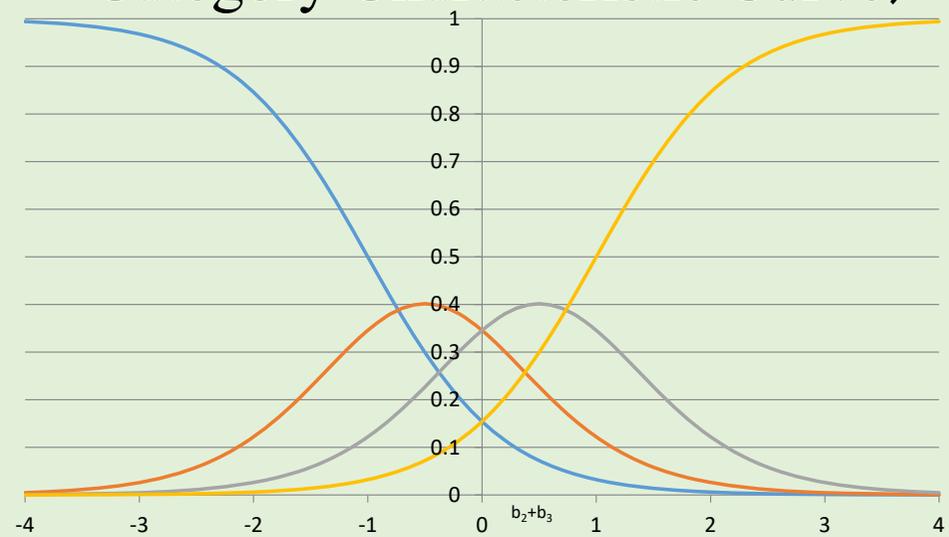
- 1) 各項目の**評定値平均**および**項目-評定値合計間相関係数**
- 2) **一次元性**の検討
- 3) IRTの**段階応答モデル** (Graded Response Model) を適用  
**識別力パラメタに等値制約**をおく。  
カテゴリ境界特性曲線 (Boundary Characteristic Curve: BCC) の位置を表わす**パラメタの平均値**を項目の**困難度**とした。➡ 本発表では  $b\_mean$  と表記
- 4) (第1次調査)「聞く」「読む」の**各項目の困難度**と、CEFRでの**レベルとの対応**を検討
- 4') (第2次調査)「話す」「書く」「やりとり」の**各項目の困難度**と、CEFRでの**レベルとの対応**を検討

# 【参考】段階応答モデル(GRM)のBCC およびIRCCC

## GRMのBCC



## GRMのIRCCC (Item Response Category Characteristic Curve)



野口・大隅(2014)より引用

## 【参考】段階応答モデルの境界特性曲線(BCC)

潜在特性尺度値が $\theta$ で、カテゴリ{1,2,3,4}の何れかに応答する確率を

$P_{j0}^+(\theta)$ 、カテゴリ{2,3,4}の何れかに応答する確率を  $P_{j1}^+(\theta)$ 、カテゴリ{3,4}の何れかに応答する確率を  $P_{j2}^+(\theta)$ 、カテゴリ{4}に 応答する確率を  $P_{j3}^+(\theta)$  とすると、項目jにおいてカテゴリkの境界特性曲線は、

$$P_{j0}^+(\theta) = 1.0 \quad (1)$$

$$P_{jk}^+(\theta) = \frac{1}{1 + \exp\{-Da_j(\theta - b_{jk})\}} \quad , \quad k = 1, 2, 3 \quad (2)$$

で与えられる。なお、モデルの数式展開上の理由から、

$$P_{j4}^+(\theta) = 0.0 \quad (3)$$

をダミーで定義する。なお、パラメタ $a_j$ は同一項目ではカテゴリ間で等しいことが仮定される。

## 【参考】段階応答モデルの 項目カテゴリ特性曲線 (IRCCC)

各カテゴリに回答者が応答する確率のIRCCCはBCCの差で導びかれる。カテゴリ{1}に応答する確率は、カテゴリ{1,2,3,4}の何れかに応答する確率とカテゴリ{2,3,4}の何れかに応答する確率の差で、カテゴリ{2}に応答する確率は、カテゴリ{2,3,4}の何れかに応答する確率とカテゴリ{3,4}の何れかに応答する確率の差で、カテゴリ{3}に応答する確率はカテゴリ{3,4}の何れかに応答する確率とカテゴリ{4}に応答する確率の差で与えられるから、各カテゴリ $k=1,2,3,4$ のIRCCCを $P_{jk}(\theta)$ とすると、

$$P_{jk}(\theta) = P_{jk-1}^+(\theta) - P_{jk}^+(\theta), \quad k = 1, 2, 3, 4 \quad (4)$$

となり、図のような形状を示す。

# 結 果

CEFRの予備知識  
CEFRの日本語教育への  
適用可能性に関する基礎研究  
目 的  
方 法  
結 果  
考 察  
まとめ と 今後の課題  
参考文献

# 結果 第1次調査 基礎統計量

## 評定平均値

	最小値	平均値	最大値
「聞く」	1.53	2.50	3.61
「読む」	1.74	2.68	3.53

適度の分布状況  
削除対象となる項目はない

## 項目-評定値合計間相関係数

	最小値	平均値	最大値
「聞く」	0.33	0.54	0.68
「読む」	0.35	0.60	0.72

# 結果 第1次調査 一次元性の確認

「聞く」「読む」合計70項目の項目間相関(ポリコリック相関)行列の固有値

第Ⅰ固有値 41.720

第Ⅱ固有値 4.448

第Ⅲ固有値 2.961

第Ⅳ固有値 2.058

第Ⅴ固有値 1.707

第Ⅵ固有値 1.120

以下 1.000 未満

➡ 一次元性が確認された

# 結果 第1次調査 IRT分析の結果

聞く

JFS項目番号	CEFR 6 levels	b_mean	差	本研究による仮レベル
18	C2	1.53	0.42	C2
13	C1	1.11	0.02	C1
24	C1	1.08	0.01	
31	C1	1.07	0.07	
20	B2	1.00	0.08	
1	C2	0.92	0.07	
2	C1	0.86	0.03	
23	C1	0.82	0.02	
19	C1	0.80	0.04	
32	B2	0.76	0.22	
14	B2	0.54	0.00	B2
33	B2	0.54	0.06	
6	B2	0.48	0.04	
3	C1	0.44	0.19	
5	B2	0.25	0.03	
7	B2	0.22	0.19	
26	B1	0.03	0.03	B1
15	B2	0.00	0.01	
25	B2	-0.01	0.00	
34	B1	-0.01	0.08	
21	B1	-0.09	0.01	
27	B1	-0.10	0.16	
16	B1	-0.26	0.11	
35	B1	-0.38	0.11	
22	B1	-0.49	0.19	
36	A2	-0.67	0.08	
8	B1	-0.76	0.07	
17	A2	-0.83	0.26	
9	B1	-1.09	0.05	A2
30	A1	-1.13	0.11	
10	A2	-1.24	0.03	
28	A2	-1.28	0.53	
11	A2	-1.81	0.15	A1
12	A1	-1.96		

読む

JFS項目番号	CEFR 6 levels	b_mean	差	本研究による仮レベル
37	C2	1.30	0.13	C2
38	C2	1.17	0.24	
68	C1	0.93	0.16	C1
39	C1	0.77	0.13	
52	B2	0.65	0.02	B2
69	B2	0.63	0.04	
51	B2	0.59	0.05	
59	C1	0.53	0.06	
60	B2	0.47	0.03	
40	B2	0.44	0.10	
62	B2	0.35	0.03	
61	B2	0.31	0.19	
53	B1	0.12	0.06	B1
63	B1	0.06	0.03	
64	B1	0.03	0.26	
41	B1	-0.23	0.08	
47	B1	-0.30	0.03	
45	C1	-0.34	0.02	
65	B1	-0.36	0.01	
46	B2	-0.37	0.07	
48	A2	-0.44	0.02	
70	B1	-0.46	0.08	
54	B1	-0.54	0.03	
66	A2	-0.57	0.21	
43	A2	-0.79	0.03	A2
67	A1	-0.82	0.02	
42	A2	-0.84	0.05	
71	A2	-0.89	0.06	
72	A2	-0.94	0.07	
55	A2	-1.01	0.16	
49	A2	-1.17	0.01	
57	A2	-1.18	0.05	
44	A1	-1.23	0.05	
50	A1	-1.28	0.21	
58	A1	-1.48	0.09	A1
73	A1	-1.57		

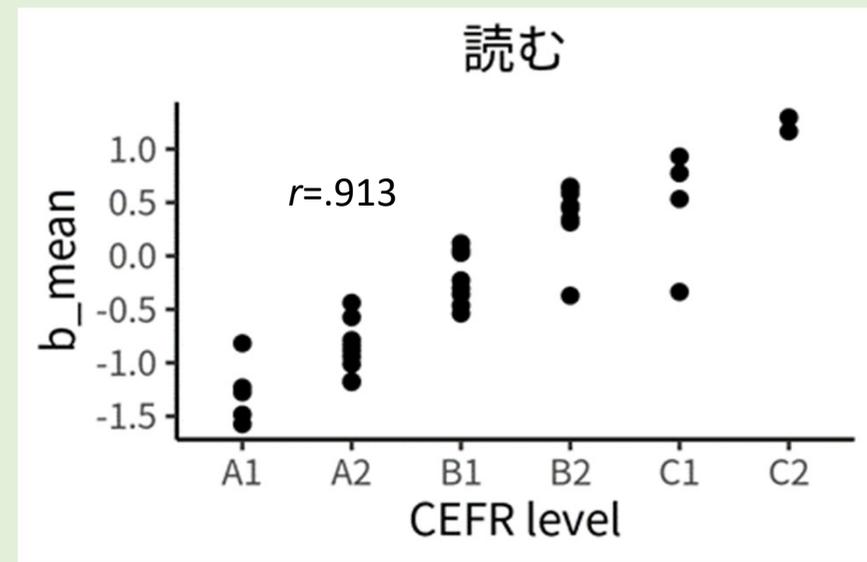
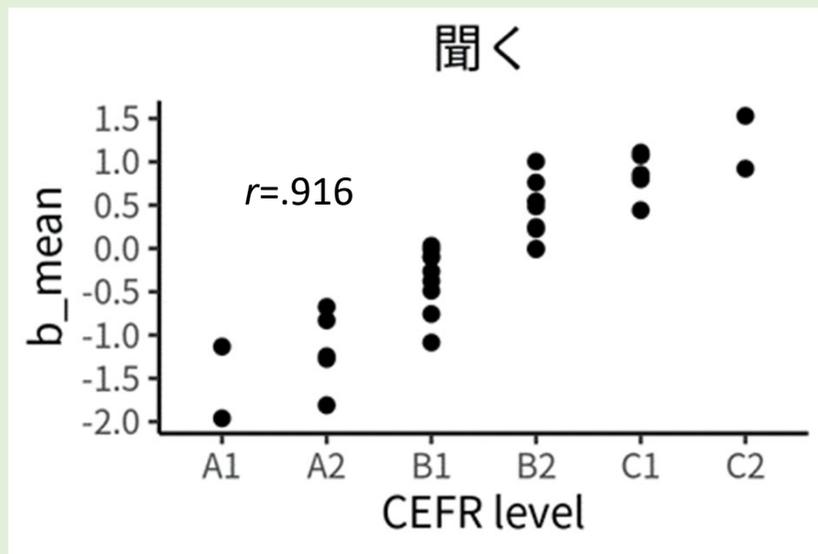
b\_meanの差の大きさと  
CEFR6レベルの並びの連続性と  
を勘案して、本研究による仮レ  
ベルを設定

# 結果 第1次調査 IRT分析の結果

## CEFRからのレベルの変化

レベルの変化	聞く 項目数(項目番号)	読む 項目数(項目番号)
上昇	5 (17, 20, 30, 32, 36)	5 (44, 48, 50, 66, 67)
変化なし	23 (省略)	28 (省略)
下降	6 (1, 3, 9, 11, 15, 25)	3 (45, 46, 59)
計	34	36

# 結果 第1次調査 IRT分析の結果 CEFRレベルと困難度



項目のCEFRレベルが上がるに従って項目困難度も幅を持ちながらも全体として上がって行く様子が見られる。

横軸のCEFRのレベルをA1からC2に1から6の数値を割り当て、相関係数を計算すると、「聞く」「読む」ともに極めて高い相関係数が得られた。

# 結果 第2次調査 基礎統計量

## 評定平均値

	最小値	平均値	最大値
「話す」	1.90	2.63	3.37
「書く」	1.88	2.47	3.16
「やりとり」	1.63	2.79	3.59

## 項目-評定値合計間相関係数

	最小値	平均値	最大値
「話す」	0.57	0.74	0.87
「書く」	0.66	0.72	0.79
「やりとり」	0.64	0.76	0.88

適度の分布状況  
削除対象となる項目はない

# 結果 第2次調査 一次元性の確認

「話す」「書く」合計33項目の項目間相関(ポリコリック相関)行列の固有値

固有値	A版	B版	C版
$\lambda 1$	20.073	12.736	12.481
$\lambda 2$	1.433	1.364	1.585
$\lambda 3$	0.767	0.925	0.631
$\lambda 4$	0.694	0.556	0.466
$\lambda 5$	0.592	0.512	0.418

➡ 全て高い一次元性が確認された

# 結果 第2次調査 IRT分析の結果 話す・書く

話す

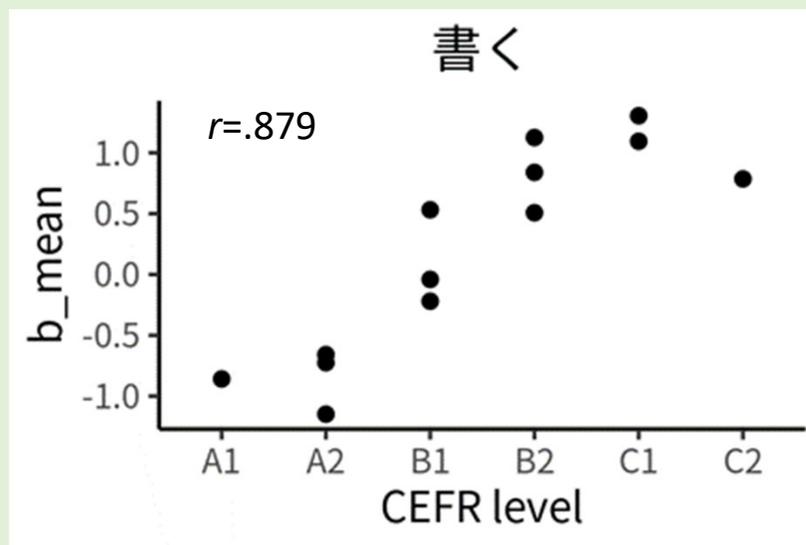
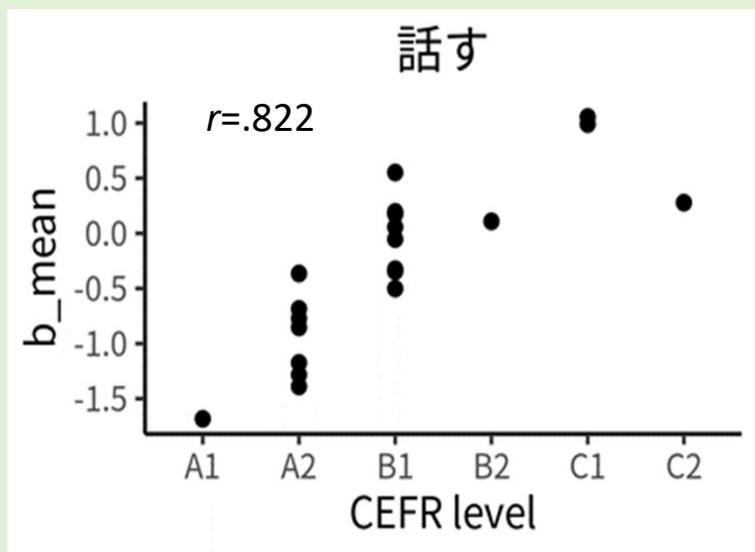
書く

JFS項目番号	CEFR 6 levels	b_mean	差	本研究による仮レベル	JFS項目番号	CEFR 6 levels	b_mean	差	本研究による仮レベル
90	C1	1.06	0.06	C1	141	C1	1.31	0.18	C1
91	C1	0.99	0.44		160	B2	1.13	0.03	
96	B1	0.55	0.27	B2	156	C1	1.10	0.26	
89	C2	0.28	0.08	B1	161	B2	0.84	0.05	B2
97	B1	0.19	0.02		140	C2	0.79	0.25	
100	B1	0.17	0.07		164	B1	0.53	0.02	
92	B2	0.11	0.05		143	B2	0.51	0.55	
94	B1	0.06	0.11		145	B1	-0.04	0.18	B1
99	B1	-0.05	0.27		162	B1	-0.22	0.44	
95	B1	-0.32	0.02		149	A2	-0.66	0.07	A2
98	B1	-0.35	0.02		150	A2	-0.73	0.13	
104	A2	-0.36	0.14		153	A1	-0.86	0.29	
93	B1	-0.50	0.18		151	A2	-1.15		A1
103	A2	-0.69	0.09	A2					
101	A2	-0.77	0.08						
102	A2	-0.85	0.32						
105	A2	-1.17	0.11						
106	A2	-1.28	0.11						
107	A2	-1.39	0.29						
108	A1	-1.68		A1					

# 結果 第2次調査 IRT分析の結果 話す・書く CEFRからのレベルの変化

レベルの変化	話す 項目数(項目番号)	書く 項目数(項目番号)
上昇	2 (96, 104)	3 (153, 160, 164)
変化なし	16 (省略)	8 (省略)
下降	2 (89, 92)	2 (140, 151)
計	20	13

# 結果 第2次調査 IRT分析の結果 話す・書く CEFRレベルと困難度



項目のCEFRレベルが上がるに従って項目困難度も幅を持ちながらも全体として上がって行く様子が見られる。

CEFR のレベルと b\_mean との相関係数は「話す」で .822, 「書く」で .879と高い値を示すが, 「聞く」の .916, 「読む」の .913 に比べてやや低い。

## 結果 第2次調査 一次元性の確認 やりとり

固有値	A版	B版	C版
$\lambda 1$	15.990	19.695	20.128
$\lambda 2$	1.596	2.111	1.940
$\lambda 3$	0.978	0.896	1.070
$\lambda 4$	0.546	0.767	1.019
$\lambda 5$	0.441	0.712	0.684

# 結果 第2次調査

# IRT分析の結果 やりとり

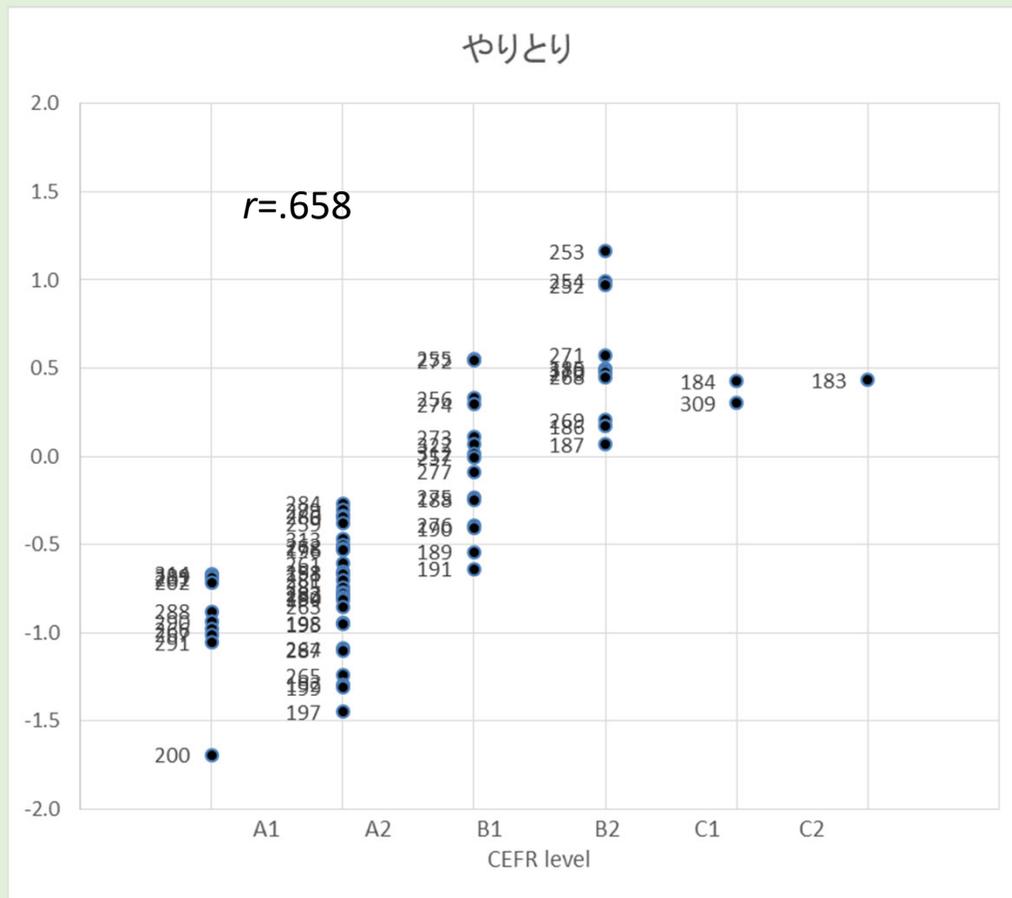
JFS項目 番号	CEFR 6 levels	b_mean	差	JFS項目 番号	CEFR 6 levels	b_mean	差
253	B2	1.16	0.17	262	A2	-0.50	0.02
254	B2	0.99	0.02	278	A2	-0.52	0.01
252	B2	0.97	0.40	196	A2	-0.53	0.01
271	B2	0.57	0.02	189	B1	-0.54	0.06
255	B1	0.55	0.01	261	A2	-0.61	0.03
272	B1	0.54	0.04	191	B1	-0.64	0.02
185	B2	0.50	0.01	258	A2	-0.66	0.01
310	B2	0.49	0.02	314	A1	-0.66	0.00
270	B2	0.47	0.02	193	A2	-0.67	0.01
268	B2	0.45	0.02	289	A1	-0.68	0.01
183	C2	0.43	0.01	201	A1	-0.69	0.01
184	C1	0.43	0.10	281	A2	-0.70	0.01
256	B1	0.33	0.02	202	A1	-0.71	0.03
309	C1	0.30	0.01	285	A2	-0.74	0.03
274	B1	0.30	0.09	282	A2	-0.77	0.01
269	B2	0.21	0.04	283	A2	-0.78	0.02
186	B2	0.17	0.06	280	A2	-0.80	0.01
273	B1	0.11	0.04	194	A2	-0.81	0.04
322	B1	0.07	0.00	263	A2	-0.85	0.03
187	B2	0.07	0.05	288	A1	-0.88	0.06
312	B1	0.02	0.02	290	A1	-0.94	0.01
257	B1	-0.01	0.08	198	A2	-0.95	0.01
277	B1	-0.09	0.14	195	A2	-0.95	0.03
275	B1	-0.23	0.01	266	A1	-0.98	0.03
188	B1	-0.25	0.02	267	A1	-1.01	0.05
284	A2	-0.27	0.04	291	A1	-1.06	0.03
279	A2	-0.30	0.03	264	A2	-1.09	0.01
286	A2	-0.34	0.01	287	A2	-1.10	0.14
260	A2	-0.34	0.04	265	A2	-1.24	0.05
259	A2	-0.38	0.01	192	A2	-1.29	0.02
276	B1	-0.39	0.02	199	A2	-1.31	0.14
190	B1	-0.41	0.06	197	A2	-1.45	0.25
313	A2	-0.47	0.03	200	A1	-1.69	

項目困難度の降順に並べた場合に項目のCEFRレベル間での分離状況が「聞く」「読む」「話す」「書く」の場合の様に明確には見られない。

元のCEFRのA1項目群とA2項目群の間，A2項目群とB1項目群の間，B1項目群とB2項目群の間に重なりがあり，さらに，A1項目とB1項目とで間にA2レベルを挟むにも拘わらず困難度の極めて近接した2項目（191と314）があるなど，項目の困難度の順序に関してCEFRと本研究の結果との間での一致性が弱い。

このため，CEFRレベル間で項目の重なりが多く，b\_meanでレベル間の境界を設定できない。

# 結果 第2次調査 IRT分析の結果 やりとり CEFRレベルと困難度



相関係数は **.658**,  
「聞く」( .916 ) 「読む」( .913 )  
「話す」( .822 ) 「書く」( .879 )  
に比べて低く, **中程度の相関**。

# 考 察

CEFRの予備知識  
CEFRの日本語教育への  
適用可能性に関する基礎研究  
目 的  
方 法  
結 果  
考 察  
まとめ と 今後の課題  
参考文献

聞く

34項目が分析対象  
4段階評定者尺度  
557名対象  
分析：IRTの段階  
応答モデル

JFS項目番号	CEFR 6 levels	b_mean	差	本研究による仮レベル
18	C2	1.53	0.42	C2
13	C1	1.11	0.02	C1
24	C1	1.08	0.01	
31	C1	1.07	0.07	
20	B2	1.00	0.08	
1	C2	0.92	0.07	
2	C1	0.86	0.03	
23	C1	0.82	0.02	
19	C1	0.80	0.04	
32	B2	0.76	0.22	
14	B2	0.54	0.00	B2
33	B2	0.54	0.06	
6	B2	0.48	0.04	
3	C1	0.44	0.19	
5	B2	0.25	0.03	
7	B2	0.22	0.19	
26	B1	0.03	0.03	B1
15	B2	0.00	0.01	
25	B2	-0.01	0.00	
34	B1	-0.01	0.08	
21	B1	-0.09	0.01	
27	B1	-0.10	0.16	
16	B1	-0.26	0.11	

b\_mean  
本研究での  
困難度

野口他 (2021) より引用

## 聞く 上昇項目 5項目

32:比較的ゆっくりはっきりしたい方であれば、身近な話題に関するラジオの短いニュースや、簡単な内容の録音された話の要点を理解できる。  
(B2→C1)

JFS項目番号	CEFR 6 levels	b_mean	差	本研究による仮レベル
18	C2	1.53	0.42	C2
13	C1	1.11	0.02	C1
24	C1	1.08	0.01	
31	C1	1.07	0.07	
20	B2	1.00	0.08	
1	C2	0.92	0.07	
2	C1	0.86	0.03	
23	C1	0.82	0.02	
19	C1	0.80	0.04	
32	B2	0.76	0.22	
14	B2	0.54	0.00	B2
33	B2	0.54	0.06	
6	B2	0.48	0.04	
3	C1	0.44	0.19	
5	B2	0.25	0.03	
7	B2	0.22	0.19	

20:内容も言葉も複雑な講義、話、報告、学術的あるいは専門的なプレゼンテーションの要点がわかる。  
(B2→C1)

聞く  
上昇項目  
5項目

17:ゆっくりと、はっきりした議論なら、自分の周りで議論されている話題はおおかた分かる。  
(A2→B1)

26	B1	0.03	0.03	B1
15	B2	0.00	0.01	
25	B2	-0.01	0.00	
34	B1	-0.01	0.08	
21	B1	-0.09	0.01	
27	B1	-0.10	0.16	
16	B1	-0.26	0.11	
35	B1	-0.38	0.11	
22	B1	-0.49	0.19	
36	A2	-0.67	0.08	
8	B1	-0.76	0.07	
17	A2	-0.83	0.26	
9	B1	-1.09	0.05	A2
30	A1	-1.13	0.11	
10	A2	-1.24	0.03	
28	A2	-1.28	0.53	
11	A2	-1.81	0.15	
12	A1	-1.96		

36:ゆっくりとはっきりと話されれば、予測可能な日常の事柄に関する、短い録音の一節を理解し、必要な情報を取り出すことができる。  
(A2→B1)

30:当人に向かって、丁寧にゆっくりと話された指示なら理解できる。短い簡単な説明なら理解できる。  
(A1→A2)

## 聞く 下降項目 6項目

JFS項目番号	CEFR 6 levels	b_mean	差	本研究による 仮レベル
18	C2	1.53	0.42	C2
13	C1	1.11	0.02	C1
24	C1	1.08	0.01	
31	C1	1.07	0.07	
20	B2	1.00	0.08	
1	C2	0.92	0.07	
2	C1	0.86	0.03	
23	C1	0.82	0.02	
19	C1	0.80	0.04	
32	B2	0.76	0.22	
14	B2	0.54	0.00	B2
33	B2	0.54	0.06	
6	B2	0.48	0.04	
3	C1	0.44	0.19	
5	B2	0.25	0.03	
7	B2	0.22	0.19	

1: 早いスピードでも、直接聞か放送されたものを聞くかに関わらず、どんな種類の話も簡単に理解できる。(C2→C1)

3: 場面によって話し方が変わることを理解し、広範囲の慣用表現や口語表現がわかる。(C1→B2)

野口他 (2021) より引用

## 聞く 下降項目 6項目

25:標準的な話し方で普通のスピードで話されていれば、具体的なことでも抽象的なことでも、アナウンスやメッセージを理解できる。(B2→B1)

9:仕事、学校、趣味の場面で日常的にであう、慣れ親しんだことについて、はっきりと標準的な話し方で話されれば、要点を理解することができる。(短い語りも含む) (B1→A2)

26	B1	0.03	0.03	B1
15	B2	0.00	0.01	
25	B2	-0.01	0.00	
34	B1	-0.01	0.08	
21	B1	-0.09	0.01	
27	B1	-0.10	0.16	
16	B1	-0.26	0.11	
35	B1	-0.38	0.11	
22	B1	-0.49	0.19	
36	A2	-0.67	0.08	
8	B1	-0.76	0.07	
17	A2	-0.83	0.26	
9	B1	-1.09	0.05	A2
30	A1	-1.13	0.11	
10	A2	-1.24	0.03	
28	A2	-1.28	0.53	
11	A2	-1.81	0.15	A1
12	A1	-1.96		

15:少し努力をすれば自分の周りで話されたことはほとんどわかる(話し方を調整してくれない人たちの話し合いに参加することは難しいかもしれない)。(B2→B1)

11:はっきり、ゆっくり発音されれば、最優先事項(例えば個人や家族の基本的な情報、買い物、近所の地理、仕事)に関連した句や表現を理解することができる。(A2→A1)

# 聞く

一般に,

- 話の内容が複雑で専門性の高いテーマの場合(項目20)に困難度が上がり,
- 話のテーマが自分にとって馴染みのある場合で, はっきりと明確に発音もしくは話された場合(項目9,11)には困難度が下がる傾向が見られる。
- 項目36に関しては, 今は留守番電話はほとんど使わず, テキストで送ることが多いので「録音された短い話」のイメージができず, 困難度が上がった可能性がある

## 読む

45項目が分析対象  
4段階評定者尺度  
557名対象  
分析：IRTの段階  
応答モデル

JFS項目番号	CEFR 6 levels	b_mean	差	本研究による仮レベル
37	C2	1.30	0.13	C2
38	C2	1.17	0.24	
68	C1	0.93	0.16	C1
39	C1	0.77	0.13	
52	B2	0.65	0.02	B2
69	B2	0.63	0.04	
51	B2	0.59	0.05	
59	C1	0.53	0.06	
60	B2	0.47	0.03	
40	B2	0.44	0.10	
62	B2	0.35	0.03	
61	B2	0.31	0.19	
53	B1	0.12	0.06	B1
63	B1	0.06	0.03	
64	B1	0.03	0.26	
41	B1	-0.23	0.08	
47	B1	-0.30	0.03	
45	C1	-0.34	0.02	
65	B1	-0.36	0.01	
46	B2	-0.37	0.07	
48	A2	-0.44	0.02	
70	B1	-0.46	0.08	
54	B1	-0.54	0.03	
66	A2	-0.57	0.21	

野口他（2021）より引用

読む  
上昇項目  
5項目

48: 身近な話題についての定型的な手紙やファックス（照会、注文、確認など）を理解することができる (A2→B1)

JFS項目番号	CEFR 6 levels	b_mean	差	本研究による仮レベル
37	C2	1.30	0.13	C2
38	C2	1.17	0.24	
68	C1	0.93	0.16	C1
39	C1	0.77	0.13	
52	B2	0.65	0.02	B2
69	B2	0.63	0.04	
51	B2	0.59	0.05	
59	C1	0.53	0.06	
60	B2	0.47	0.03	
40	B2	0.44	0.10	
62	B2	0.35	0.03	
61	B2	0.31	0.19	
53	B1	0.12	0.06	B1
63	B1	0.06	0.03	
64	B1	0.03	0.26	
41	B1	-0.23	0.08	
47	B1	-0.30	0.03	
45	C1	-0.34	0.02	
65	B1	-0.36	0.01	
46	B2	-0.37	0.07	
48	A2	-0.44	0.02	
70	B1	-0.46	0.08	
54	B1	-0.54	0.03	
66	A2	-0.57	0.21	

66: 手紙やパンフレット、何かのできごとについての新聞の短い記事などの簡単な文章の中から、必要な情報を見つけることができる。(A2→B1)

## 読む 上昇項目 5項目

44:よく知っている名前や言葉，基本的な表現を見つけながら，また必要であれば読み直しながら，とても短くて簡単な文章を少しずつ理解することができる。(A1→A2)

43	A2	-0.79	0.03	A2
67	A1	-0.82	0.02	
42	A2	-0.84	0.05	
71	A2	-0.89	0.06	
72	A2	-0.94	0.07	
55	A2	-1.01	0.16	
49	A2	-1.17	0.01	
57	A2	-1.18	0.05	
44	A1	-1.23	0.05	
50	A1	-1.28	0.21	
58	A1	-1.48	0.09	A1
73	A1	-1.57		

67:簡単なパンフレットや短い説明について、何についてのものかだいたい理解することができる(絵やイラストがあればさらに簡単に把握できる)。(A1→A2)

50:葉書の短くて簡単なメッセージを理解することができる。(A1→A2)

野口他(2021)より引用

読む  
下降項目  
3項目

45: 必要に応じて辞書を使えば, どんな種類の手紙やメールでも理解することができる。(C1→B1)

52	B2	0.65	0.02	B2
69	B2	0.63	0.04	
51	B2	0.59	0.05	
59	C1	0.53	0.06	
60	B2	0.47	0.03	
40	B2	0.44	0.10	
62	B2	0.35	0.03	
61	B2	0.31	0.19	
53	B1	0.12	0.06	B1
63	B1	0.06	0.03	
64	B1	0.03	0.26	
41	B1	-0.23	0.08	
47	B1	-0.30	0.03	
45	C1	-0.34	0.02	
65	B1	-0.36	0.01	
46	B2	-0.37	0.07	
48	A2	-0.44	0.02	
70	B1	-0.46	0.08	
54	B1	-0.54	0.03	
66	A2	-0.57	0.21	

59: 社会生活, 職業生活, 学術生活で出会いそうな, さまざまな分野の内容の長くて複雑な文章について, 筆者の意見だけでなく態度や暗示されていることについても詳しく理解することができる。  
(C1→B2)

46: 自分の興味のある分野に関連した手紙やメールを読んで, すぐに要点を把握することができる。(B2→B1) あ

# 読む

➤特徴的なのは、45「必要に応じて辞書を使えば、どんな種類の通信文でも理解できる。」がC1からB1へ2レベル困難度が下降。

これは最近手紙よりもメールで連絡を見る機会が多く、文章自体の複雑さが下がっているということが反映されている可能性がある。

➤手紙やメールに関する項目(48,45,46)がB1に集まっている。

これは、現在では手紙よりもメールの利用頻度が多くなり手紙より「要件を伝える」性格が濃くなり、従って(昔で言えば「書簡集」に収録されるような)内容に深みのある手紙が見られなくなり、単に要件を適切に伝えることが中心になっているため漢字・語彙や言い回しなども限定され、その結果B1レベルに集まった可能性がある。

話す

20項目が分析対象  
4段階評定者尺度  
724名対象  
分析：IRTの段階  
応答モデル

JFS項目番号	CEFR 6 levels	b_mean	差	本研究による仮レベル
90	C1	1.06	0.06	C1
91	C1	0.99	0.44	
96	B1	0.55	0.27	B2
89	C2	0.28	0.08	B1
97	B1	0.19	0.02	
100	B1	0.17	0.07	
92	B2	0.11	0.05	
94	B1	0.06	0.11	
99	B1	-0.05	0.27	
95	B1	-0.32	0.02	
98	B1	-0.35	0.02	
104	A2	-0.36	0.14	
93	B1	-0.50	0.18	
103	A2	-0.69	0.09	A2
101	A2	-0.77	0.08	
102	A2	-0.85	0.32	
105	A2	-1.17	0.11	
106	A2	-1.28	0.11	
107	A2	-1.39	0.29	
108	A1	-1.68		A1

野口他（2021）より引用

話す  
上昇項目  
2項目

96: 予測不能の出来事  
(例えば事故など) を  
順序立てて詳細に述  
べることができる。  
(B1→B2)

JFS項目番号	CEFR 6 levels	b_mean	差	本研究による仮レベル
90	C1	1.06	0.06	C1
91	C1	0.99	0.44	
96	B1	0.55	0.27	B2
89	C2	0.28	0.08	B1
97	B1	0.19	0.02	
100	B1	0.17	0.07	
92	B2	0.11	0.05	
94	B1	0.06	0.11	
99	B1	-0.05	0.27	
95	B1	-0.32	0.02	
98	B1	-0.35	0.02	
104	A2	-0.36	0.14	
93	B1	-0.50	0.18	
103	A2	-0.69	0.09	A2
101	A2	-0.77	0.08	
102	A2	-0.85	0.32	
105	A2	-1.17	0.11	
106	A2	-1.28	0.11	
107	A2	-1.39	0.29	
108	A1	-1.68		A1

104: 簡単な、記述的な言葉を用いて、  
事物や所有物について短く述べたり、  
それらを比較できる。  
(A2→B1)

話す  
下降項目  
2項目

89: 明瞭で滞りなく、詳しく、多くは記憶に残るような経験談ができる。(C2→B1)

JFS項目番号	CEFR 6 levels	b_mean	差	本研究による仮レベル
90	C1	1.06	0.06	C1
91	C1	0.99	0.44	
96	B1	0.55	0.27	B2
89	C2	0.28	0.08	B1
97	B1	0.19	0.02	
100	B1	0.17	0.07	
92	B2	0.11	0.05	
94	B1	0.06	0.11	
99	B1	-0.05	0.27	
95	B1	-0.32	0.02	
98	B1	-0.35	0.02	
104	A2	-0.36	0.14	
93	B1	-0.50	0.18	
103	A2	-0.69	0.09	A2
101	A2	-0.77	0.08	
102	A2	-0.85	0.32	
105	A2	-1.17	0.11	
106	A2	-1.28	0.11	
107	A2	-1.39	0.29	
108	A1	-1.68		A1

92: 自分に関心のある分野に関連した広範囲な話題について、明確で詳しく述べることができる。(B2→B1)

# 話す

- 項目数が少ないので一般化して解釈することはできない。
- 「順序だてる」「比較できる」など**複数の出来事や事象を関係づけて話すことでレベルが上昇し**、「経験談」「明確で詳しく述べる」など**単に複数の出来事や事象を述べることでレベルが下降している**。  
特に、項目89は2レベル下降しているが「経験談」を語る場合に日本語では語の順序や文章の構造に自由度が高いことが影響している可能性がある。

書く

13項目が分析対象  
4段階評定者尺度  
724名対象  
分析：IRTの段階  
応答モデル

JFS項目番号	CEFR 6 levels	b_mean	差	本研究による仮レベル
141	C1	1.31	0.18	C1
160	B2	1.13	0.03	
156	C1	1.10	0.26	
161	B2	0.84	0.05	B2
140	C2	0.79	0.25	
164	B1	0.53	0.02	
143	B2	0.51	0.55	
145	B1	-0.04	0.18	B1
162	B1	-0.22	0.44	
149	A2	-0.66	0.07	A2
150	A2	-0.73	0.13	
153	A1	-0.86	0.29	
151	A2	-1.15		A1

野口他（2021）より引用

## 書く 上昇項目 3項目

160: エッセイやレポートを書く時に、根拠を提示しながら、ある視点に賛成や反対の理由を挙げ、様々な選択肢の利点と不利な点を説明できる。(B2→C1)

JFS項目番号	CEFR 6 levels	b_mean	差	本研究による仮レベル
141	C1	1.31	0.18	C1
160	B2	1.13	0.03	
156	C1	1.10	0.26	
161	B2	0.84	0.05	B2
140	C2	0.79	0.25	
164	B1	0.53	0.02	
143	B2	0.51	0.55	
145	B1	-0.04	0.18	B1
162	B1	-0.22	0.44	
149	A2	-0.66	0.07	A2
150	A2	-0.73	0.13	
153	A1	-0.86	0.29	
151	A2	-1.15		A1

164: 日常的な事実を述べ、行動の理由を説明するために、きわめて短い報告文を標準的な常用形式に沿って書くことができる。(B1→B2)

153: 自分自身や想像上の人々について、どこに住んでいるか、何をする人なのかについて、簡単な句や文を書くことができる。(A1→A2)

野口他 (2021) より引用

## 書く 下降項目 2項目

140: 明瞭ですらすらと流れるように、そのジャンルに適切な文体で書き、読み手を完全に引き込むことができる。(C2→B2)

JFS項目番号	CEFR 6 levels	b_mean	差	本研究による仮レベル
141	C1	1.31	0.18	C1
160	B2	1.13	0.03	
156	C1	1.10	0.26	
161	B2	0.84	0.05	B2
<del>140</del>	C2	0.79	0.25	
164	B1	0.53	0.02	
143	B2	0.51	0.55	
145	B1	-0.04	0.18	B1
162	B1	-0.22	0.44	
149	A2	-0.66	0.07	A2
150	A2	-0.73	0.13	
153	A1	-0.86	0.29	
<del>151</del>	A2	-1.15		A1

151: 家族、生活環境、学歴、現在または最近の仕事について、簡単な句や文を連ねて書くことができる。(A2→A1)

野口他 (2021) より引用

# 書く

- 項目数が少ないので一般化して解釈することが難しい点は「話す」と同様
- 「論理性を明確にする文章」「事実に対して理由や根拠を明示する文書」を日本語で記述することに難しさを感じるのか、漢字を適宜用いることに難しさを感じるのかは、この結果だけから明らかにすることはできない。
- 項目140が2レベル下降しているのが特徴的。回答者がどのような文章を念頭において回答したかということが影響した可能性も考えられる。
- 日本語の場合には「書く」の言語能力記述文の中で漢字をどの程度使うのかということを示すように工夫する必要がある。  
すなわち、そのような条件を満たす言語能力記述文を開発することが必要。
- 漢字圏学習者と非漢字圏学習者とで回答傾向に違いがあるかなど、さらに実証的な研究が必要である。

社会的な  
やりとりをする

185:騒音の多い環境でも、たいていの  
話題について長い会話に参加できる。

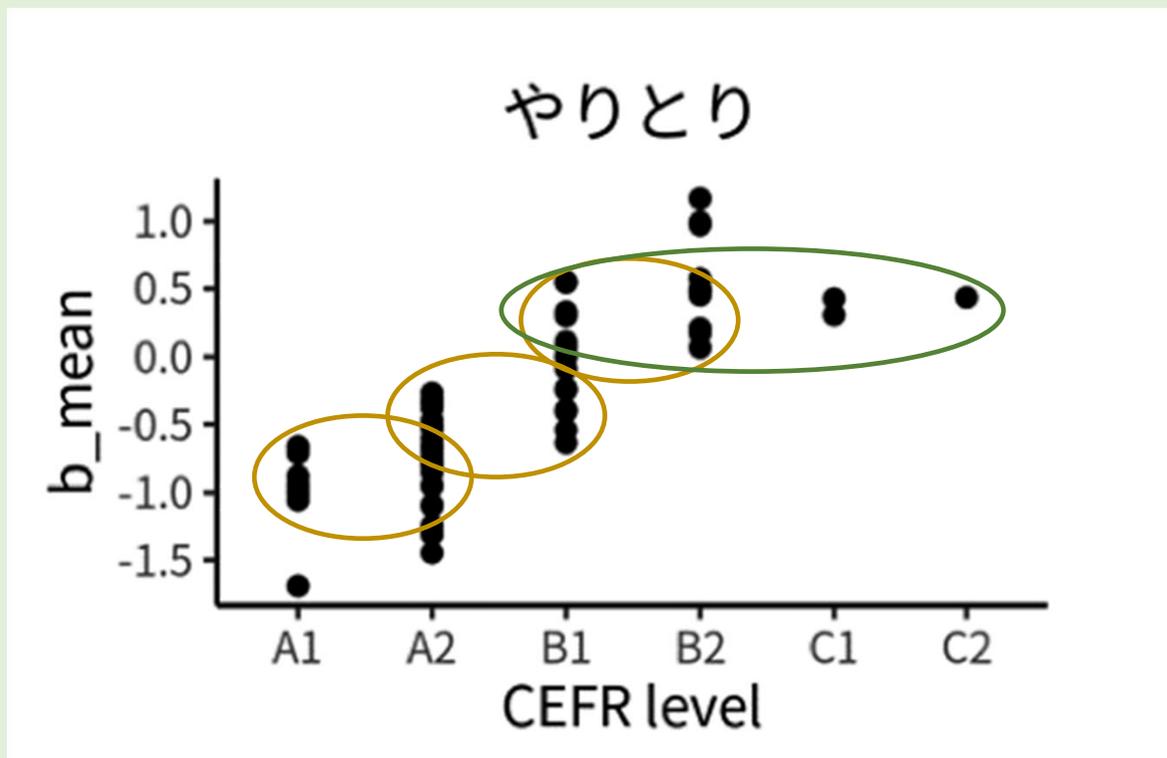
JFS項目 番号	CEFR 6 levels	b_mean
185	B2	0.50
183	C2	0.43
184	C1	0.43
186	B2	0.17
187	B2	0.07
188	B1	-0.25
190	B1	-0.41
196	A2	-0.53
189	B1	-0.54
191	B1	-0.64
193	A2	-0.67
201	A1	-0.69
202	A1	-0.71
194	A2	-0.81
198	A2	-0.95
195	A2	-0.95
192	A2	-1.29
199	A2	-1.31
197	A2	-1.45
200	A1	-1.69

やりとり

66項目が分析対象  
4段階評定者尺度  
724名対象  
分析：IRTの段階  
応答モデル

レベル間の境界を  
設定できなかった

野口他（2021）より引用

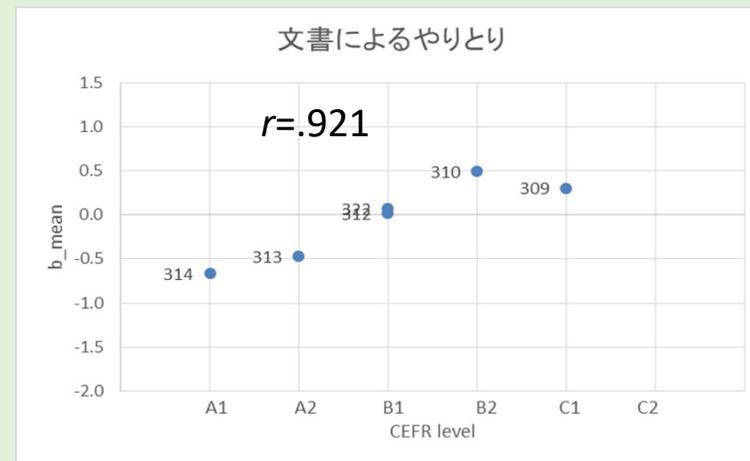
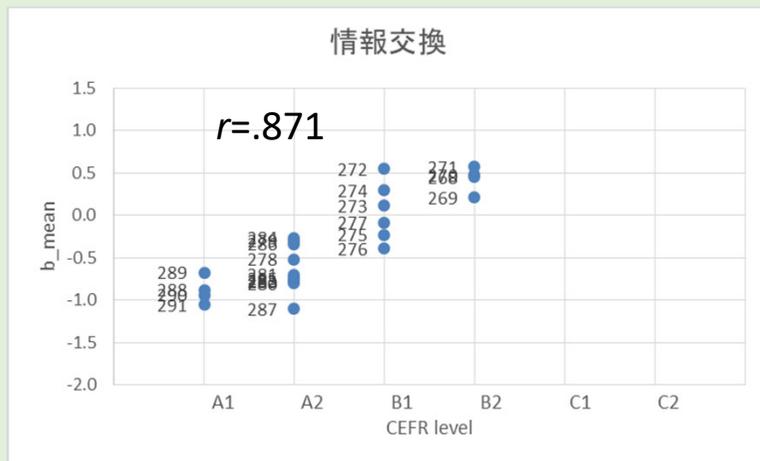
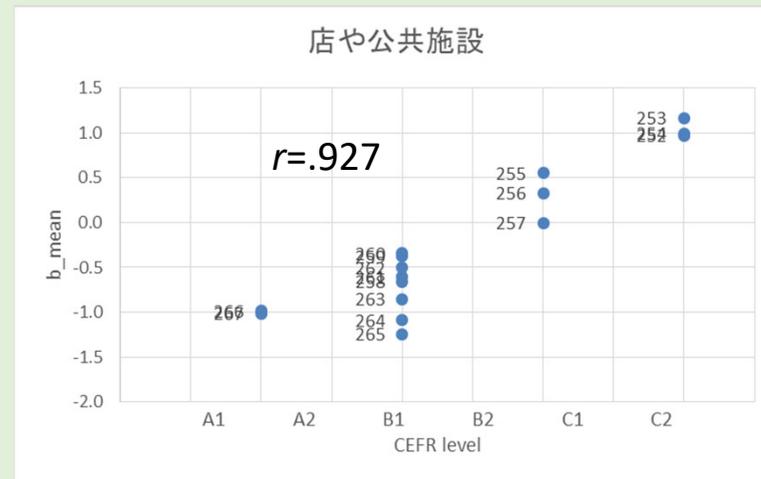
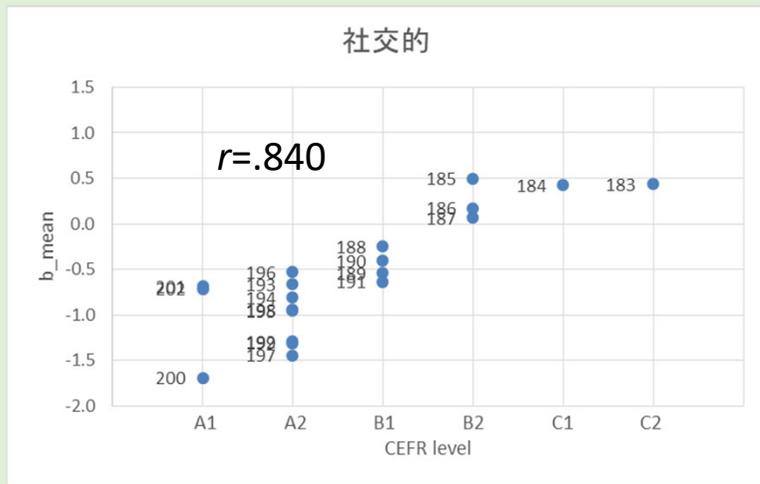


やりとり  
 A1項目群とA2項目群、A2項目群とB1項目群、B1項目群とB2項目群の間に重なりがある  
 A1とB1でも困難度の近接した項目あり  
 CEFRレベルを1から6として相関  
 → .658

# やりとり

- **CEFRのレベル間で項目の重なりが多い**ということが、各項目の困難度とCEFRレベルとの相関係数が「聞く」「読む」「話す」「書く」に比べて低い値にとどまることにも現われている。  
このことは**CEFRの言語能力記述文が日本語を目標言語とした場合にレベルもしくは難易度を調整する必要がある**ことを示している。
- **この点をもう少し詳細に見るために**、「やりとり」を本研究の調査票で用いた「**社交的なやりとりをする**」「**店や公共機関でやりとりをする**」「**情報交換する**」「**手紙やメールでのやりとり**」の**4つのカテゴリ毎に検討**する。

# やりとりのカテゴリ別 CEFRレベルと困難度



- **社交的**で, 201「人が元気かどうかを聞き, 近況を聞いて, 反応することができる。」(A1), および, 202「こちらの事情を理解してくれるような話し相手から, はっきりとゆっくりと, 繰り返しを交えながら, 直接自分に話が向けられれば, 具体的で単純な, 必要を満たすための日常の表現を理解できる。」(A1)の2項目が**6つのA2項目よりも高い困難度**を示している。これらのことからb\_meanによる仮レベルの境界を設定していないが, レベルが上昇したと判断した。
- 201,202はともに話の内容に加えて相手との関係を日本語では欧州域内の言語よりも重視して表現を変える必要性があるという特徴が**困難度を上げている可能性**がある。

- 項目のCEFRのレベルとb\_meanとの散布図を図5(やりとり), 図6(社交的), 図7(店や公共施設), 図8(情報交換), 図9(手紙やメールでのやりとり)に示した。  
CEFRレベルとb\_meanとの相関係数は順に, .840, .927, .871, .921であった。
- 全ての場合で「やりとり」全体の .658よりも高い値が得られ, 中でも「店や公共施設」と「手紙やメールでのやりとり」は「聞く」「話す」と同じ水準の値を示している。
- これはカテゴリ間で, 「やりとり」をする状況, 「やりとり」の内容, 「やりとり」をする言語活動(「話す」か「書く」か)が異なり, これらが言語能力記述文の困難度に反映したものと考えられる。

➤ 以上をまとめると,

「やりとり」には日本語の独自性および日本語使用に関する特徴が現われやすく, これらが言語能力記述文のb\_meanに反映している可能性がある。

ただし, 本研究で取り上げた4つのカテゴリの結果であり, 他のカテゴリも含めてさらに検討が必要である。

# まとめ と 今後の課題

CEFRの予備知識  
CEFRの日本語教育への  
適用可能性に関する基礎研究

目的  
方法  
結果  
考察

まとめ と 今後の課題

参考文献

# まとめ

- 「聞く」「読む」 ➡ CEFRの能力記述文の内容やそのレベルを日本語でもそのまま使える部分が多い。
- 「話す」「書く」 ➡ CEFRをそのまま使える部分も多いが、「聞く」「読む」に比べて、検討を要する部分が多い。

例えば、「書く」では「論理性を明確にする文章」「事実に対して理由や根拠を明示する文章」の困難度が上がる傾向が見られたが、日本語では、論理的文章は日常的な文書とは異なる語彙が使用され、漢字語も多い。

そのため、両者は異なる傾向があったと考えられる。

- 「書く」 ➡ CEFRでは漢字の使用は想定されておらず、日本語を目標言語とした場合には、「書く」の項目で漢字をどの程度使用するかが分かるような工夫が必要。
- ➡ 母語が漢字圏か非漢字圏かによる回答傾向の違いなどについて、さらに検討が必要。

- 「やりとり」 ➡ 他の言語活動に比べて他者とのコミュニケーションで直接性、対面性が高い。  
そのため相手に対する配慮など社会的文化的要因の影響を受ける傾向が強い可能性がある。
- ➡ CEFRが欧州域内の言語共通参照枠であることに鑑みると、異なる社会的文化的な特徴を持つ日本語を用いて「やりとり」をする場合に言語能力記述文によっては、その意味が欧州域内とは異なり、結果的に困難度が変わる可能性がある。

## 今後の課題

- 今後これらの結果を統合して、CEFRを日本語教育に適用するために必要な調整事項や補助尺度、特に日本語の独自性を示す記述文の開発や漢字能力の尺度化について検討することが必要。
- さらにCEFR-CV (Council of Europe, 2020) でのレベル数拡張や「やりとり」以上に社会的文化的側面の影響が反映すると予想される「mediation(仲介・架橋)」尺度を目標言語が日本語の場合に取り入れるには、単に言語能力記述文を日本語に翻訳するのではなく、CEFRの言語能力記述文の内容に対する調整や補足の必要性について検討が必要。

# 参考文献

Council of Europe (2001). *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge University Press.

Council of Europe (2020). *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment - Companion Volume*. Council of Europe Publishing.

Fulcher, G. (2003). *Testing second language speaking*. New York, NY: Pearson Longman.

国際交流基金 (2013). JF日本語教育スタンダード2010. 国際交流基金.

野口裕之・大隅敦子 (2014). *テストングの基礎理論*. 研究社.

野口裕之・大隅敦子・熊谷龍一・島田めぐみ (2021). CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)の日本語教育への適用可能性に関する基礎研究. *日本テスト学会誌*. 17, 9-23.

North, B. (2000). *The development of a common framework scale of language proficiency*. Peter Lang.

North, B. (2014). *The CEFR in Practice*. Cambridge University Press.

North, B. & Schneider, G. (1998). *Scaling descriptors for language proficiency scales*, *Language Testing*, 15, 217-262.

投野由紀夫 編 (2013) .CEFR-Jガイドブック. 大修館書店.

Weir, C. W. (2005). *Limitation of the Common European Framework for developing comparable examination and tests*. *Language Testing*, 22, 281-300.

吉島茂・大橋理枝 訳編 (2004). 外国語教育Ⅱ - 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠-, 朝日出版社.



ご清聴ありがとうございました

c31314a[at]cc.nagoya-u.ac.jp

